

第2期葉梨中学校区小中一貫教育推進計画

ゆ め ひ ら
夢 を 拓 く

～ 葉梨は私の心のふるさと ～



令和7年3月

葉梨中学校区学校運営協議会

目 次

ページ

I 計画策定にあたって

1 本計画の位置づけ	1
2 これまでの経緯	2
3 成果と課題	3

II 葉梨中学校区小中一貫教育方針

1 葉梨中学校区で育てたい子供像	5
2 推進方法	6
3 推進形態	6

III 具体的な取組

1 取組内容	7
--------	---

IV 計画年次

1 計画の期間	13
---------	----

V 資料

1 学校運営協議会委員	14
2 用語解説	16

I 計画策定にあたって

1 本計画の位置づけ

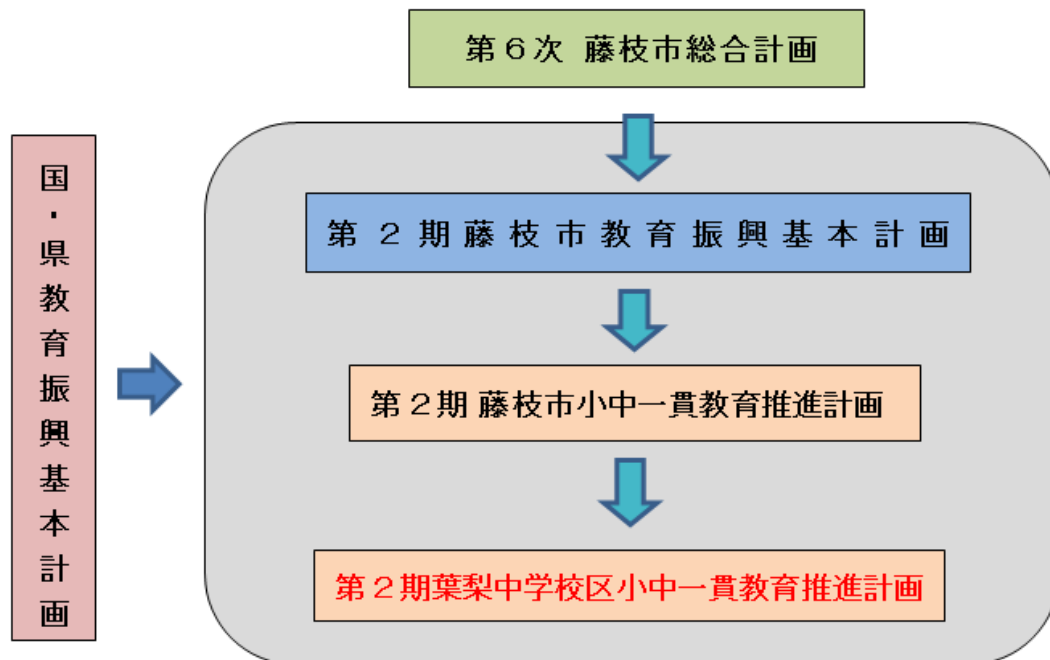
小中一貫教育は、「第6次藤枝市総合計画」における7つの基本目標の内の1つである「子供が健やかに学び、育つ藤枝づくり」の「学校教育の充実」の中の施策として、「小中一貫教育の推進」を位置づけています。

また、「第2期藤枝市教育振興基本計画（教育大綱）」においても「個が輝き、未来を切り拓く力を育む学びの充実」を目標とし、施策のひとつに小中一貫教育の推進を掲げています。

「第2期藤枝市小中一貫教育推進計画」は、今後の本市における小中一貫教育を推進するための基本理念や基本方針及び取組事項を定めており、これを受けて中学校区ごとに小中一貫教育推進計画を策定しています。

本計画は、「中学校区小中一貫教育推進計画」の葉梨中学校区版となるもので、前計画における5ヵ年計画での取組・実践を踏まえて、学校運営協議会で協議を重ね策定し、「第2期葉梨中学校区小中一貫教育推進計画」として位置づけます。

葉梨中学校区小中一貫教育推進計画の位置づけ



2 これまでの経緯

葉梨地区は、史跡があちこちに残る歴史のある地域です。地元の歴史や文化を大切にしようという思いを強くもっている方も多くいます。

平成23年度から始まった藤枝市小中学校連携ドリームプラン事業^{*1}では、子どもの自己肯定感を高めることを葉梨小中学校共通の目標に据え、「百人一首」に取り組んだり、読み聞かせ活動や葉梨地区良書100選を作成するなど読書活動の充実を図ったりしてきました。また、特別支援教育の視点に立ち、教室環境や授業のユニバーサルデザイン化^{*2}を図るなど、葉梨地区小中学校では9年間を見通し、一貫した教育に取り組んでいます。さらに、平成30年度には、学校教育目標を3校で共通の『夢を拓く』に設定し、小中一貫教育を視野に入れた教育活動を展開しています。

その後、令和2年度には学校運営協議会が設置され、葉梨地区小中一貫教育推進計画に基づき、コミュニティ・スクール^{*3}を推進してきました。第1期での主な取り組みとその成果と課題については、以下の通りです。

【第1期の主な取り組み】

- ① 小中合同研修会の実施（夏季・秋季の年2回）
 - ・3校に共通した課題解決に向け、講師を招聘しての研修会
 - ・授業公開　・各指導部における小中連携についての検討
- ② 小中交流
 - ・中学生における小学校での「あいさつ運動」や「読み聞かせ」
 - ・中学生における学校案内や合唱披露、授業・部活参観
 - ・中学校の教員による、小学校6年生を対象にした出前授業
- ③ 小小交流
 - ・全学年での休み時間の交流、6年生は遠足や授業での交流
 - ・掲示物やタブレットを使った総合的な学習や生活科の活動報告
- ④ 地域の方々による教育活動の支援、地域との連携
 - ・野菜や花の栽培、家庭科の実習（ミシン、裁縫、調理実習等）、総合的な学習、生活科（昔の遊び等）、読み聞かせ、登下校見守り、地域探訪、職業体験
- ⑤ その他　葉梨3校で共通した取り組み
 - ・葉梨スタンダード（UD）
 - ・メディアコントロールデー
 - ・コミュニティ・ホリデー
 - ・PTA 広報誌3校共同作成
 - ・葉梨良書100選の作成と活用
 - ・3校2園による合同引き渡し訓練
 - ・9年間共通デザイン制服の導入
 - ・百人一首

3 成果と課題（第2期で取り組みたいこと）

～ 葉梨地区3校で育てたい子ども像 ～

「かしこさ・たくましさ・やさしさ・地域愛」

葉梨地区は小中一貫教育を市内でも早い時期にスタートし、令和2年3月に「葉梨地区小中一貫教育推進計画」が策定されました。教員間では小学校と中学校のそれぞれの良さや努力を知った上で、どうしたら子どもたちの力を伸ばせるかという思いを共有することができています。また、地域の方々も子供たちのためにできることをしたいという思いが強く、学校運営協議会では毎回、熱心な議論が交わされています。

令和7年度からは、新しい推進計画がスタートします。これまでの実践で良いものを継続しながら、葉梨地区の子供たちにつけたい資質・能力を改めて学校間や地域と確認しながら、小中一貫教育を推進していきたいと考えます。



葉梨西北小・葉梨小の交流

(1) 成果

〈子どもたち〉

- ・小学生同士、小学生と中学生の関わりが増え、親近感が高まってきました。小学校のうちから顔見知りができたり、中学生にあこがれを抱いたりする中で、中1ギャップが緩和され、スムーズに中学校生活をスタートできるようになってきました。中学生は、小学生を喜ばせたいという相手を思いやる心が育ち、意欲的に活動する姿が見られました。



葉梨中生とハイタッチ

- ・葉梨スタンダードや葉梨良書100選、百人一首などを各校で行うことで、大事にしたい学びや文化を共有できています。
- ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、外国語指導のALTは3校共同職員です。また、3校を兼任している特別支援教育支援員が1名在籍しています。これらは、進学した子供たちに安心感を与えています。教職員にとっても、小中の相互理解が深まり、必要な情報を共有できるので、大きなメリットになっています。

〈教職員〉

- ・ 小学校教員は、指導内容が中学校にどのようにつながっていくかを考えて授業をするようになりました。中学校教員は、小学校での学びを生かした指導を考えるようになりました。
- ・ 生徒指導や特別支援教育を行う上で、配慮が必要な子供たちへの理解や指導の協力体制がとれてきています。適正な就学にもつなげることができるなど、子供たちの健全な育成に効果が表れています。

〈地域〉

- ・ メディアコントロールや新制服の導入など、具体的な取り組みを家庭や地域と協力して進めることができました。
- ・ 葉梨こども園や橘幼稚園との幼小中の連携を増やすことができました。引き渡し訓練や教職員の研修会等も合同で行うことができました。
- ・ 学校運営協議会が市に働きかけ、R 5 年度からワゴン車を朝比奈第一小と共有できることになりました。これにより計画に自由度が増し、幅広い教育活動が可能になりました。学年費の計上も必要ないため、小小・小中交流を活発に行うことができるようになりました。



スクールサポーターズの方によるミシンの授業支援

(2) 課題（第2期で取り組みたいこと）

- ・ 小中共通の課題として、子供たちの「主体性」を高めたいということが挙がっています。今後、学校と地域で協力し、具体的な手立てを打っていきたいです。
- ・ 9年間の系統性をさらに意識した教育活動を推進します。そのためには、学習指導要領における系統性の確認と「小中一貫教育カリキュラム」のさらなる活用を進めていきます。
- ・ 確かな学力をつける上で、「読解力」は3校の子供たちにとって共通の課題です。「読解力」をつけるために、教師の指導力を向上させる研修を継続し、「学力・学習状況調査」等で効果を検証していきます。
- ・ 西北小は小規模校のため、職員の手が足りず運動会等の運営が大変になってきています。今後は地域や葉梨中生にボランティアを依頼していきたいです。
- ・ 「夢を拓く」というキャッチフレーズに、「葉梨は私の心のふるさと」というサブタイトルを令和6年度から掲げることになりました。葉梨をふるさととし、愛着と誇りをもつ子供たちを育てるための方策を考え、今後も地域の力をお借りし、教育活動を進めていきたいです。

Ⅱ 葉梨中学校区小中一貫教育方針

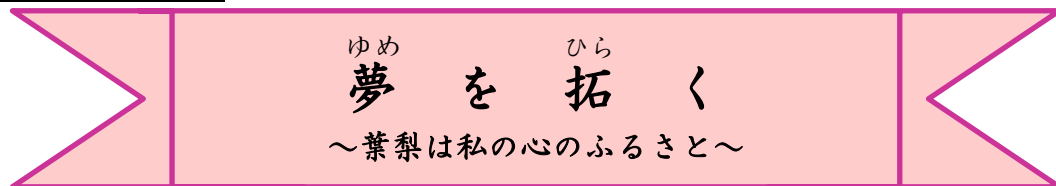
1 葉梨中学校区で育てたい子供像

本地区では、本市が目指す「未来を生き抜く力の育成」のために、地区の子供たちの実態に即しながら、学校・保護者・地域が協議して地域の願いを込めたキャッチフレーズと、小学校と中学校が一貫して育てたい子供像を設定しました。

社会の変化や少子高齢化の流れの中、保護者や地域の思いとして、自ら夢を切り拓いたり、葉梨に留まらず世界で活躍したりするなど、変化が激しい社会の中でもたくましく生き抜いていく子を願う思いが語られ、葉梨地区の3校が9年間を通して育てたい子供像「かしこさ・たくましさ・やさしさ・地域愛を持った子」を本地区で育てたい子供像として考えました。

この子供像をもとに、未来に向かってたくましく自ら夢を拓いてほしい、その夢はグローバルに活躍できるよう世界に向かってほしいという思いを込め、キャッチフレーズを「夢を拓く」としました。また「ひらく」という字には、困難な道乗り越え、夢を実現させる、自ら切り拓くとの思いを込め、「拓」の字を使っています。このキャッチフレーズを学校・家庭・地域で共有し、地域総ぐるみで子供の成長を支援していきます。

キャッチフレーズ



《キャッチフレーズに込めた思い》

- ・未来に向かって、たくましく自ら夢を拓いてほしい
- ・その夢は葉梨にとどまらず、グローバルに活躍できるよう世界に向かってほしい

※ この「拓く」には、単に夢が「開く」「叶う」にとどまらず、困難な道を乗り越え、「実現させる」「切り拓く」という思いを込めています

※ サブタイトルには、キャッチフレーズが地域ぐるみの願いであること、地域ぐるみの取り組みであるという意味を込めています

葉梨地区の教育を通して育てたい子供像

- | | |
|-------------------------|---------|
| 1 授業を通して学びを深める子 | 〈かしこさ〉 |
| 2 自分の夢や目標に向かって努力し続ける子 | 〈たくましさ〉 |
| 3 互いの良さを認め、相手の気持ちを思いやる子 | 〈やさしさ〉 |
| 4 葉梨の地を愛し、地域とともに成長する子 | 〈地域愛〉 |

2 推進方法

本地区においても、第2期藤枝市小中一貫教育推進計画に合わせ、以下の項目に沿った「Ⅲ 具体的な取組」(P7～)事業を展開していきます。

第2期藤枝市小中一貫教育推進計画の推進方法

(1) 社会的資質の向上 ～ ふれあいでつなぐ ～

コミュニティ・スクールでの家庭・地域・学校等の連携・協働により、子供たちの社会参加の機会を充実させ、地域の人と触れ合う体験をする中で、自己肯定感(自尊感情)を高め、社会を生き抜くたくましさ、社会の変化に適応する能力や社会性を育成します。

(2) 確かな学力の習得 ～ 学びをつなぐ ～

9年間を見通した系統的・継続的な学習指導や学習習慣の確立を図るとともに、コミュニティ・スクールとの連携により地域人材を活用した授業を推進し、子供の学習意欲の向上や確かな学力の習得に努めます。

(3) 豊かな人間性の育成 ～ 夢・希望をつなぐ ～

各中学校区で積み上げた教育活動、児童生徒間の多様な交流や、コミュニティ・スクールでの地域との交流等により、豊かな人間性や思いやりの心を育みます。

(4) 地域を担う人材の育成 ～ 地域でつなぐ ～

コミュニティ・スクールを通して、家庭・地域・学校等が一体となった教育環境づくりを推進し、地域に愛着と誇りを持ち地域に貢献する人材を育成します。

(5) 教職員の指導力向上 ～ 教えをつなぐ ～

小中一貫教育コーディネーターが中心となり、小中学校等の教職員が合同研修会や合同授業研修会等の交流を行うことを通して、相互理解を深め、9年間を見通した教育を展開し、子供一人ひとりの学びの保障に努めます。

3 推進形態

コミュニティ・スクールの活動をさらに充実させ、家庭・地域・学校等が連携・協働した「地域とともにある学校づくり」の充実を目指していきます。

各学校において、小中一貫教育を推進する担当教員を「小中一貫教育コーディネーター」として位置づけ、コミュニティ・スクールディレクターと連携しながら、小中一貫教育の更なる推進を図っていきます。

Ⅲ 具体的な取組

1 取組内容

(1) 社会的資質の向上

家庭・地域・学校の連携・協働により、地域社会へ意識を向けさせたり子どもたちの社会参加の機会を充実させたりする中で、自己肯定感(自尊感情)を高め、社会を生き抜くたくましさ、社会の変化に適応する能力や社会性を育成します。

① 学校・保護者・地域で育てたい子ども像の共有化

小中学校教職員だけでなく、保護者、地域にも広く周知し、学校・家庭・地域等が総ぐるみで子どもの成長を支援していきます。

② コミュニティ・スクールの推進

3校共通の学校教育目標「夢を拓く」の実現・達成に向けて、学校運営協議会を立ち上げ、学校・家庭・地域が一体となった人づくりを推進します。

③ 夢づくりへの取組推進

すべての児童・生徒に自らの夢について考えさせる機会を持ち、周囲からの助言や励ましも力にしながら夢を切り拓くたくましさや、これからの社会を生き抜くたくましさを育成します。

④ キャリア教育^{*4}の充実

「夢」を実現した地域の先輩やアスリート等を招聘して話を聞いたり、地域での職場体験学習を経験したりすることで、自分の生き方を見つめると共に、地域の大人と触れ合うことで社会性を育みます。

⑤ 自己決定力の育成

自分で考え判断し、責任ある行動がとれる力を育むために、自己目標を掲げる場を多く設定し、自己決定力を高めます。

発表やスピーチ、インタビュー活動など、自分の考えや思いを相手に伝える場面を授業の中に計画的に取り入れることで、思いを豊かに表現する力を育みます。

⑥ コミュニケーション能力^{*5}の育成

小小交流・小中交流を重ねることで、自分から相手に関わろうとし、良い人間関係をつくろうとする意欲・態度を育てます。中1ギャップ^{※6}の緩和にもつながります。

⑦ 規範意識の醸成

小中9年間を通して生活ルールの共通化を図ることで、当たり前のことが当たり前にできる生活習慣の確立と、弱い自分を律して強い心をもって行動できる道德心を育成します。

(2) 確かな学力の習得

授業を充実させ、9年間を見通した系統的・継続的な学習指導により、子どもの学習意欲向上や学習習慣の確立を図り、確かな学力を育成します。

① 基礎基本の定着

ア 小中一貫教育カリキュラムの活用

「藤枝市小中一貫教育カリキュラム^{*7}」を活用し、教科等の系統性・連続性を踏まえながら、学年の発達段階に応じた知識や技能を習得します。

イ 家庭学習の習慣化

家庭でも自主的に学習に取り組むことができる習慣づけを、家庭（保護者）と協力して推進します。

ウ 一人ひとりの子への支援体制の充実

特別支援教育とも連携する中で、支援員やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の配置を充実させ、互いに連携体制を図ることで、子ども一人ひとりへの対応をより確かなものにしていきます。

エ 学びやすい学習環境づくりの推進

特別支援教育の視点から葉梨中学校校区で作成した「葉梨スタンダード」による教室環境や授業のユニバーサルデザイン化を図ることで、どの子にとっても学びやすい学習環境づくりを保障します。

オ 個別最適な学習環境づくり

ICT教育^{*8}を推進し、一人1台端末を活用することで、子どもたちが主体的に学びを進められるような授業づくりに取り組みます。藤枝市が作成した『情報活用能力育成の段階表』を基に、それぞれの学年に応じた活用能力を身につけるよう指導をしています。

② 専門的な指導の充実（特に理科・技能教科等で）

ア 小学校高学年における教科担任制の実施

小学校高学年では教科担任制をとったり、専科教員を配置したりして専門的見地からの指導を行うことで、表現力や論理的思考力等を育みます。

イ 乗り入れ授業^{*9}等の実施

中学校教員が小学校への乗り入れ授業を行い、より専門的な指導を行うことで、子どもの教科への関心・意欲を高めます。また、小学校教員が中学校の授業や進路指導等に入り、中学校教員と一緒に指導を行います。

③ 伝統的な言語活動に親しむ

ア 「百人一首」に親しむ学習

葉梨地区で受け継がれてきた伝統ある百人一首の学習をこれからも葉梨3校の共通な取組として引き継いでいきます。



（葉小・西北小の6年生で百人一首）

百人一首で詠まれている大和言葉を声に出して読むことで、日本古来の日本語の美しさに触れます。

(3) 豊かな人間性の育成

葉梨地区での小中学校連携ドリームプラン事業で積み上げた読書教育や特別支援教育等を通して、児童生徒間の多様な交流や地域との交流により、豊かな人間性や思いやりの心を育みます。

① ふじえだ型ピア・サポート活動^{*10}の充実

同学年のみならず、異学年との交流も図るなど、子どもたちの手によるピア・サポート活動を通して、自他ともにより良いかかわり方をしようとする心や思いやりの心を育みます。

② 地域や小中学校が連携した読書教育の推進

ア 読み聞かせ活動の推進

読み聞かせ「はなはなタイム」の時間を活用し、地元や保護者による読み聞かせや、小中連携での中学生による読み聞かせ活動、を積極的に推進することによって、本に親しむとともに、互いに相手を思いやる心を育みます。



(読書ボランティアによる読み聞かせ)

イ 憧れる先輩として、中学生の姿をみせる

中学校新入生説明会において、6年生に中学生の歌声を聴く機会を設けます。中学生にとっても、自分の思いを歌に乗せて表現する力を磨く機会になります。6年生は、先輩のすばらしい歌声を聴くことで、良い刺激を受け、歌への姿勢も学ぶことができます。

ウ「葉梨地区 良書100選」の活用

葉梨地区の小中学校3校で推薦図書100冊を選出し、子どもたちへの読書指導を充実させることで豊かな心を育みます。

エ 保護者、地域ボランティアとの連携・協働

読み聞かせや図書室整備などにおいて、保護者や地域のボランティアと連携・協働することで、地域ぐるみの読書活動の充実を図ります。

③ 地域の人材や資源を生かした学びの推進

「葉梨は私の心のふるさと」のキャッチコピーの実現に向け、地域

を学ぶ、地域を通して学ぶ教育活動を充実させます。また、総合的な学習をはじめ、様々な学習で行っていきます。

④ 道德教育の充実

ア 葉梨3校での重点目標（内容項目の重点）の共通化

道德の学習において、葉梨3校で重点とする内容項目を絞り、共通化することで、より確かな道德的な力を育みます。また、指導案や授業内容について情報交換をし、子どもたちの見とりを深めます。

イ 小中合同道德の実施

小中学校合同での講演会や演劇鑑賞会を開催し、地域の方も交えて行うことで、葉梨地区の子ども・保護者・地域の人たちが同じ道德的価値に触れる機会をつくります。

⑤ 3校連携した特別支援教育の推進

特別支援教育の視点に基づく「葉梨スタンダード」を活用した取組で教室環境や授業のユニバーサルデザイン化を図ったり、教員による小中合同研修会等での連携した取組や情報交換を行ったりするなど、葉梨3校で連携した特別支援教育の推進を図ります。

⑥ 地域と連携した福祉教育の充実

地元のお年寄りサロンや介護福祉施設（開寿園、誠和藤枝病院等）など、地域の福祉施設等と交流することを通して福祉の心を育みます。



(小中合同のキャリア教育講演会)



(葉中生の職業体験)



(葉中生による小学校でのあいさつ運動)

(4) 地域を担う人材の育成

家庭・地域・学校等が一体となった教育環境づくりを推進し、地域に愛着と誇りを持ち地域に貢献する人材を育成します。

① 3校合同のPTA活動

ア PTA活動の連携・一体化

3校合同の広報誌の発行、PTA行事のリサイクル活動や奉仕作業、保護者向けの研修会等の合同実施など、3校が連携・一体化したPTA活動を実施します。

イ PTA・地域が一体となったあいさつ運動やメディアコントロール運動

PTAが主になり、朝のあいさつ運動を推進したり、「8のつく日はノーメディア」と地域全体に呼びかけたりして、あいさつ運動やノーメディア運動を地域一体となって推進します。

ウ 地域を巻き込んだPTA活動

PTAが主催で行うリサイクル活動や奉仕作業、地域のごみ拾い等の活動を、地域の人々と一緒に取り組む行事として計画し、大人も子どもも一体となった活動を行っていきます。



(PTAリサイクル活動)



(PTA 奉仕作業)

② 葉梨地区スクールサポーター活動の推進（学校の応援団）

ア 登下校の見守り隊との連携

地域の見守り隊と連携を取り、PTAが登下校時に街頭に出て、子どもたちの安全を見守る活動を推進していきます。

イ 学校サポーターズクラブ^{*11}等との連携

学校と学校サポーターズクラブが連携をとる中で、地域や保護者ボランティア等を募り、花壇の植替えや草取り等の環境整備を行ったり、ミシン学習や野菜作り、昔の遊び学習などの学習支援を行ったりするなど、学校の応援団としての活動を推進していきます。

ウ 地域の人材バンク作成とその活用

地域と連携しながら葉梨地区の人材バンクを作成し、学校の環境整備や学習支援をはじめ、放課後支援等、学校の応援団として地域ぐるみで子どもの教育や学校支援に取り組んでいきます。

③ 小中学生が地域行事等に参加・交流できる体制づくり

ア 地区行事への参加

交流センターのふれあいまつりや地区社会福祉協議会の行事、町内会の夏祭り等、地区の行事や祭りに積極的に参加し、地域の人との交流を図れるよう、地域と連携した体制づくりを進めていきます。

イ 地域の防災訓練への参加

地域の防災訓練に参加し、割り当てられた役割を果たすことで、地域の一員であることを自覚できるよう、進んで参加できる体制づくりを地域と学校、保護者が連携して進めていきます。

ウ 保育園・幼稚園との交流

中学生は家庭科（保育）の授業を通して、小学生は生活科の授業等を通して、子どもたち同士の保・幼・小・中の連携を進めていきます。



(地域の人による地域学習)



(学校サポーターズクラブによる学習支援)



(葉梨地区交流センターふれあい祭)



(葉中生が葉梨子ども園を訪問)

(5) 教職員の指導力向上

合同研修会や合同授業研修会、小中教職員の交流を通し小中学校教職員が相互理解を深め、9年間を見通した教育を展開し、児童生徒一人ひとりの学びの保障に努めます。

① 小中教職員の交流

中学校教員が小学校の授業に入り、乗り入れ授業を実施することで、小学校高学年において教科担任制の授業を行っていきます。また、小学校教員が授業補助や進路指導などの際に中学校に入り、中学校教員と一緒に指導を行っていきます。

② 小中合同の教員研修会の実施

葉梨地区の子どもへの9年間を見通した指導の方向性を共通理解し、日々の授業や指導を充実させるよう、小中学校合同の教員研修会を実施します。またその中で、小中学校教員がお互いに授業を見合う等の研修も行い、授業力の向上をめざします。

③ 授業研修での研修主題の統一、めざす授業像の共有化

小中学校3校の授業研修での研修主題を統一し、3校の教員がめざす授業像を共有し、9年間を見通した授業展開を行っていきます。

④ 授業案の共有（小学校：外国語活動、外国語科、道徳）

2校の小学校で同じ授業案を共有することで、同じ中学校に進んでいく上での指導の一貫性を図っていきます。



(中学校の教師による小学校出前授業)



(小中合同研修会)

IV 計画年次

1 計画の期間

本計画は、令和7年度を初年度とし、令和11年度を目標年度とする5か年計画とします。

ただし、社会情勢の変化や国・県の施策と連動するため、基本的には5年後に見直しをしていきますが、上位計画である「第2期藤枝市小中一貫教育推進計画」と連動する中で、必要が生じた場合には随時改訂していきます。

V 資料

1 学校運営協議会委員

令和6年度葉梨中学校区学校運営協議会委員名簿（敬称略）

	氏 名	所属団体等
1	森谷 睦男	葉梨第一自治会長
2	増田 隆	葉梨第二自治会長
3	山梨 文男	葉梨第三自治会長
4	大高 茂紀	葉梨第四自治会長
5	小池 富士夫	スクールサポーターズクラブコーディネーター
6	伊藤 博敏	民生・児童委員代表
7	高野 三男	地域安全推進協議会地区長
8	大塚 博巳	元藤枝市サッカー協会会長
9	厚谷 孝志	葉梨地区補導員会地区長
10	篠宮 けい子	葉梨こども園園長
11	山崎 由美子	藤枝橘幼稚園園長
12	杉村 太志	葉梨地区交流センター長
13	畑田 舞	保護者代表（葉梨小 PTA 会長）
14	杉本 和彌	保護者代表（葉梨西北小 PTA 会長）
15	福井 淳史	保護者代表（葉梨中 PTA 会長）
16	新宮 広己	葉梨小学校長
17	井鍋 敬子	葉梨西北小学校長
18	成瀬 英明	葉梨中学校長
19	浅井 好美	コミュニティ・スクール ディレクター
20	平井 直美	コミュニティ・スクール 事務局教頭

2 用語解説

アルファベット

ICT（アイシーティー）【P8 ＊8】

Information and Communication Technology の略。コンピュータや情報通信ネットワーク（インターネット等）などの情報コミュニケーション技術のこと。社会の情報化が急速に進展する中で、学校においても、コンピュータやインターネット、デジタルカメラ、タブレット、電子黒板等の ICT が多様な学習のための重要な手段として活用されれば教育の質の向上が図れると期待されている。

か行

学校サポーターズクラブ 【P11 ＊11】

学校を支援するため、学校が必要とする活動について、地域の人々をボランティアとして派遣する組織のこと。家庭・地域・学校等が一体となって地域ぐるみで教育に取り組む体制の構築を目的としている。

キャリア教育 【P7 ＊4】

一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育のこと。

コミュニケーション能力 【P7 ＊5】

国際社会を生き抜く異文化コミュニケーション能力、世代間コミュニケーションの問題を克服する能力、人間関係を形成していく能力など、これからの時代を生きる子どもたちにとっての基礎的な能力のこと。

コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）【P2 ＊3】

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、各教育員会が地域住民、保護者などにより構成される「学校運営協議会」を設置し、学校運営や学校の課題に対して、学校と保護者や地域住民がともに知恵を出し合い、協議し、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え、「地域とともにある学校づくり」を進める仕組みのこと。

さ 行

小中学校連携ドリームプラン事業【P2 ＊1】

児童生徒の確かな成長のため、地域での9年間を意識し、同一中学校区の小中学校が連携して取り組む藤枝市独自の事業。子どもたちが夢を持ち、教員にとっても教育研究となることを目的としている。

た 行

中1ギャップ【P7 ＊6】

小学校から中学校に進学したときに、学習や生活の変化になじめず、いじめや不登校などのさまざまな困難を抱えてしまう生徒が増える現象のこと。いわゆる「問題行動等調査」の結果を学年別に見ると、小6から中1で不登校数等が急増するように見えることから使われ始めた。

な 行

乗り入れ授業【P8 ＊9】

中学校教員が小学校で教科担任をしたり、ティームティーチングで指導を行ったり、小学校教員が中学校で授業を行うこと。

は 行

ふじえだ型ピア・サポート活動【P9 ＊10】

児童生徒同士など同じ立場の仲間同士で思いやり支え合う実践活動。

子どものコミュニケーション能力や、思いやりの心を育むことを目的とした、子ども自身が自発的に行う活動のこと。ボランティア清掃から友達への声かけといったさりげないものまで、「人のためになる、仲間を助ける活動」のことを指す。ふじえだ型とは思いやり溢れる学校風土を醸成していくことをねらいとし、これによって悩みを抱えたり、友だち関係をうまく結べなかったりして何らかのサポートを必要とする子どもたちへの支援につなげようとしている部分で、「人と支え合い、つながり、かかわり合う活動」を指している。

藤枝市小中一貫教育カリキュラム 【P8 ＊7】

本市で伝統的に取り組んでき藤枝型授業を意識し、平成29年3月に改訂された新学習指導要領をベースに市内教職員を中心に作成した小中学校9年間における教科の教育内容計画のこと。

本市が取り組む小中一貫教育を推進する1つの柱として、学習指導のつながりを明確にし、基本的な知識及び技術の確実な習得を目指すと共に全教職員が9年間を見据えた質の高い指導を行うことができるよう全教科と特別支援教育分野で作成。本市教職員全員に配布している。

ゆ 行

ユニバーサルデザイン化 【P2 ＊2】

一般的にユニバーサルデザインは、年齢、性別、障害の有無等を問わず、あらゆる人々が利用しやすいようにあらかじめ設計することを意味する。この考え方を教室環境や授業づくりにも当てはめたものが教室環境や授業のユニバーサルデザイン化であり、発達障害を抱えている子どももそうでない子どももすべての児童生徒にとって、学びやすい教室環境づくりや分かりやすい授業づくりを行うこと。

第2期葉梨中学校区小中一貫教育推進計画

令和7年3月

葉梨中学校区学校運営協議会

藤枝市教育委員会 教育政策課